

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 2年 3月 25日

アンケート期間:令和 2年 1月 15日~令和 2年 1月 28日

事業所名:児童発達支援センター楽田RAKUDA 保護者等数(児童数) 29 回収数 21 割合 72.4%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	80.9%	19.0%	0%	0%	・駐車場の近くは危ない。・お昼寝スペースがあるとよい。歩行器やトランポリン等遊ぶスペースがあるとよい。・狭いわけではないが、部屋の隅がごちゃつとしているのが気になる。	園庭に出る時は東側駐車場に車を移動し扉を閉めて遊ぶようにします。歩行器等の収納用に倉庫を新設しました。レイアウトに工夫してなるべく広いスペースが確保できるようにしていきます
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	80.9%	19.0%	0%	0%	・もう少し療法士さんや職員さんがいたらいいと思います。・STの配置が少ない。	・重複の障害のある子どもが多数を占めるので、法令の職員配置基準(子ども4職員1)よりかなり手厚く(1:1~1.5)保育士または児童指導員を配置しています。PT,STに関しては配置義務はありませんが、生活の中でより良い支援ができるよう配置しています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	80.9%	14.2%	0%	4.7%	・玄関の段差を車いすで超えるのが大変。	・車椅子などの為に東側にスロープが設置してあります。今後はスロープが活用できるようご案内していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	90.4%	9.5%	0%	0%	・室内はとてきれいだ(①同様、部屋の隅に物がたくさんあり、崩れたりしないのかも気になる。	・新しく設置した倉庫に用具など移動させて整理しました
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	100%	0%	0%	0%	・もう少し長く預かってもらえると本当に助かります。	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	95.2%	0%	0%	4.7%	・色々な角度から見ていただけて、本人が頑張れるようにして下さっていると思います。私どもも安心してお願いできています。	
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	80.9%	14.2%	0%	4.7%	・療育的なこと、伸びそうなことを合わせてやってほしい。・やり残りが見受けられる。・個人面談で提示された計画書の内容がどれだけ行われているかよく分からない、どれだけやっているかチャック表があるとわかりやすいのではないのでしょうか。連絡帳には毎回違う内容の活動をしているのがわかりやすく書いてあった。	・計画にある具体的支援内容について、どれだけできているか期中途中で評価し、できていないことはそれ以降取り組むようにしています。期末には計画の評価をし翌期の計画につなげていきます。その内容について面談等でお伝えしていきます。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	85.7%	4.7%	4.7%	4.7%		
9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	57.1%	4.7%	9.5%	28.5%	・保育園との交流がもっとあるといい。	・現在近くの2つの保育園と、年長年中児が交流をさせていただいています。保育園の行事や職員の付添い(1対1)の都合で回数に限られていましたが、来年度から回数が増やせるよう検討していきます。児童館に行く機会も積極的に作るようにしています。	
保護者 への 説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	95.2%	4.7%	0%	0%		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	95.2%	4.7%	0%	0%		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	61.9%	19.0%	4.7%	14.2%	本人が楽しんで、何かできた時すぐ褒めるようにしているけど、特性を理解したり等はあまり考えていない。本人が楽しい事から学べばいいと思っている。・支援計画書に書かれたことを教えて下さることになってはいたはずが、何も教えていただけていない。(ハンドサイン等)	・保護者のみなさんが子育てに前向きに取り組めるように、個別に支援はしてきています。来年度ペアレントトレーニング等ご要望があれば検討していきます。計画に書かれたことは確実に伝えていくようにします。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	95.2%	4.7%	0%	0%	・連絡帳でできている。・伝えていますが、それを実践してくださっているかが見えない時もあります。・課題や共通理解はできているが、自宅ではやらない。自宅でもやると疲れる。特にﾊﾞﾊﾞは説明してもやらないから意味ない。	
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	95.2%	4.7%	0%	0%		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	85.7%	14.2%	0%	0%	・父母の会はない。・お茶会で話したり、母親同士は連絡先を交換しているので、それで充分です。・2~3か月に一度、保護者会があると情報交換等もできてよいと思います。	・情報交換できるように、2~3ヶ月に1回程度参観の後にお茶会ができるようにしていきます。
16 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	100%	0%	0%	0%	・全てではないが、要望に対して対策等、割と早く対応してくださっていると思う。		

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	95.2%	4.7%	0%	0%	・基本的にはなされていて満足しています。利用日数が少ないと、情報が遅いという時がたまにあります。・連絡漏れがある時があるので、無いようにしてほしいです。	・保護者の方へ連絡漏れや遅れないよう十分気をつけて行きます
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	85.7%	9.5%	0%	4.7%	・センター便りが不定期なので、月に1回はあると嬉しい。センターでの子どもの様子ももっと知りたいです。	・センター便りは、定期的に出していきます。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	85.7%	4.7%	0%	9.5%	・HPの写真が加工なしなのが気になる。ぼかし等があるとよい。不特定多数に見られている。そういった対策がどのように実施されているかはわからない。	・HPの写真については、契約時に文書で承諾をいただいた方へのみの掲載にしています。個人情報に関しては、H28.12.1に個人情報取扱規定を作成し、それに基づくマニュアルに従い、取り扱いには十分注意しています。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	66.6%	9.5%	0%	23.8%	・聞いたことがないような気がします。・楽田内ではいいと思うが、親がどう対応していいかわからない。楽田と親との間でどうすればいいか。	・センター開始時に、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルは策定し、職員はいつでも見られるようにしてあります。保護者のみならず、保護者への周知・説明が不足していたので今後していきます。防災訓練はセンター内では定期的に行っていますが、保護者との連携ができていなかったもので、災害時の緊急連絡メールの確認から取り組みを始めています。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	66.6%	9.5%	0%	23.8%	・自分の子どもが参加できていないかもしれない。・どんなことをしているのかわからないので、知りたいです。	・センターだりでもお伝えしていますが、毎月必ず訓練を行っています。災害時に役立つ訓練になるよう考えて行っています。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	90.4%	4.7%	0%	4.7%	・毎回とても楽しみにしています。・朝はグズグズな日もありますが、帰宅時は毎日笑顔でギュッと抱き着いてくれます。・喜んで車に乗っていくので、楽しみにしていると思います。・子どもの楽しい気持ちを大切にしてくれる。心を育むことの大切さを楽田さんから教えていただいた。・すごい楽しみにしています。表情が違う。・とても楽しみにしています。・当初は、よく泣いていましたが、今ではニコニコで通所して変えてきます。回数を重ねるごとに出来ることも増えました。	・これから療育目標であるお子さんたちの「心と体の土台を作る」ことができるよう、今まで通り楽田らしく「楽しく過ごす時間を大事にしながら努力していきます。
	23	事業所の支援に満足しているか	95.2%	4.7%	0%	0.0%	・親の心のケアまでしていただき、とても満足しています。ありがとうございます。・とても良くしてもらっています。これからも続けてもらえるようによりよい環境で働ける場所であってほしいと思います。・色々支援して頂き感謝しかありません。いつもありがとうございます。・とても満足しています。何も言うことはないです。信頼しています。・病院、療育、リハビリの先生などどの支援者よりも子どものことをよく見て理解してくれている。支援内容が的確で、親も勉強になることがたくさんある。・いつもありがとうございます。・楽田さんたちの先生方はとても細かく配慮して頂き、こちらも大変安心してお任せできます。毎日、日常の様子を書いてくださるのを見て、子どもがどんな1日を過ごしたのかが、とても伝わり、楽しみに読んでおります。・他事業所のことは知りませんが、子どもが、楽しく過ごせているようで満足しています。	・お子さんと保護者のみなさんの心に寄り添って、これからも誠実に支援をしていきます。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 2年 3月 20日

公表:令和 2年 3月 30日

事業所名:児童発達支援センター楽田RAKUDA

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・今年度歩行者などの収納用倉庫を設置して、なるべく広いスペースが確保できるようにしています。	
	2 職員の配置数は適切である	○		個々の状況に合わせて、目標に向けた支援ができるよう配置しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	車椅子やバギーで直接教室に入れるようにスロープを作っています。室内は段差なく移動できるようになっています。子供用入り口には踏み台を設置しています。	・スロープが活用できるようにしていきます。子供用入り口の踏み台を2段にするなど入りやすく、また靴の着脱がしやすいよう変えていきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		安全に気持ちよく過ごせるよう毎日清掃、整理・整頓に努めています。活動に合わせて机や遊具を配置しています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	常勤職員を中心に、より働きやすい環境が整えられるよう日常的に現場の声が反映できるようにしています。	より多くの職員が参画できるような仕組みづくりに努めます。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向け評価表の結果をふまえ改善内容を検討しています。	保護者向け評価表の結果、改善内容等を職員全員で共有できるようにしていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者評価は行っていません。	今後検討していきます。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間計画に基づき、施設内研修や外部の研修に参加しています。研修参加後は研修報告書の作成・回覧を行い、研修の内容を職員間で共有し日々の支援に活かせるようにしています。	非常勤の職員も参加しやすい研修を提供できるように考えていきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		調査票・面談等で家庭や病院での様子を伺い子どもの状況や保護者のニーズを把握しています。また、そのうえでアセスメントツールで子どもの状態や課題を把握し、計画を作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		個々のケースに応じて、遠城寺式とKIDSのどちらか、または両方を使用しています。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援ガイドラインにある項目に従って目標と具体的な支援内容を設定しています。	ガイドラインにあるすべての項目について設定していますが、今後は個々のケースに合わせて必要な項目かどうか検討し計画に反映していきます。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画にある支援内容を日々の活動の中に取り入れています。常に計画の目標を意識しながら支援できるようにクラスごとに目標を一覧にしたものを作ったり、ケース記録の様式も工夫して作成しています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		各クラスごとに日々の活動プログラムを決めています。全体の行事に向けての活動に関しては常勤が原案を作り、それをもとに職員で話し合って決めています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節の行事、クッキング給食、買い物、公園、児童館、図書館など子どもができるだけ主体的に楽しみながらできることや、経験の巾が広がることを大事にして、色々な活動プログラムを考えています。	
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	○		子どもの状況に合わせて、児童発達支援ガイドラインにある本人支援の5領域それぞれの項目において個別・集団両方の活動を想定して計画を作成しています。「人間関係・社会性」の領域に関しては集団活動を主な活動としています。		

適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○	勤務時間の違いや送迎の都合上全員が集まることは難しいため、常勤職員の打ち合わせで決まった支援の内容や、役割分担がわかる表を作り、勤務前に診て確認できるようにしています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	常勤職員が支援終了後に送迎に出る為、送迎終了後に常勤職員でその日の支援の振り返りを行い、非常勤職員とは翌日気づいた点、送迎時保護者からの連絡事項など共有するようにしています。全員で情報が共有できるよう各クラスごとで連絡ノートを活用しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	支援内容の記録、個々のケース記録をとり、それをもとに支援の評価・改善につなげている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	半年ごとにモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断しています。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	ケースに応じ児童発達支援管理責任者、理学療法士、担当保育士が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	保健師や訪問看護事業所と連携し情報交換をしています。また病院の症例検討会にも参加しています。各市の相談支援専門員とは密に連絡を取るようにしています。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	主治医とは保護者を通して、協力医療機関とは直接連絡がとれるようにしています。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	移行する保育園が決まる時期が年度終わりの為、各市の担当課と情報共有や相互理解が図れるようにはしています。	移行する保育園が決まったら早めに支援内容の共有ができるように準備をしていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	小学校、特別支援学校小学部とは日常的に連携できるよう努めています。特別支援学校の先生の保育実習も毎年積極的に受け入れています。移行の際の引継ぎは書面のほか、必要に応じ職員が学校に出向いて行っています。毎年5月に担任の先生の訪問があり、入学前入学後の情報交換をし、相互理解が図れるようにしています。	
関係機関や保護者との連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	現在他の児童発達支援センター、事業所とは連携がありません。障害児療育等支援事業で発達障害者支援センターの研修を受けることはありません。	他の児童発達支援センター、事業所などのような形で連携するのがいいのか検討していきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	近くの二つの保育園と交流しています。また児童館に出かけ、障がいのない子どもと遊ぶ機会を作るようにしています。	今年度行ってきた二つの保育園との交流を来年度も引き続き行っていきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	子ども部会にはセンター長が、市の発達支援連携会議には児童発達支援管理責任者が積極的に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	毎日の送迎の際や連絡帳で子どもの様子をできるだけ多く伝えるようにしています。また、半年ごとの面談のほか必要に応じて面談を行ない共通理解が持てるよう努めています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	個々のケースに応じて保護者の対応力が向上できるよう支援していますが、ペアレント・トレーニングなどの家族支援プログラムは行っていません。	引き続き保護者のみなさんが前向きに子育てできるように支援していきます。ペアレント・トレーニングについてはご要望があれば検討していきます

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に、契約書、重要事項説明書を用い丁寧に説明しています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		面談時に支援内容の説明をして保護者の同意を得ています。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		半年ごとの面談時のほか、保護者からの要望に応じ、その都度相談に応じ助言と支援を行っています。必要な時は担当の相談支援専門員にもつなげています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		新規利用の保護者には親の会の案内をしています。保護者参観の後に保護者同士の情報交換、連携ができるようお茶会を開いています。	定期的に保護者同士の情報交換できる場を提供していきます。また保護者の要望があればOBの保護者から情報をいただき、相談にのってもらえる機会を作っていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談申し入れがあった場合は、すぐに適切に対応できるようにしています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に一回センターだよりを発行して情報発信しています。また年に数回法人で会報を発行しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報のファイルは鍵付きのキャビネットに保管しています。法令遵守マニュアルで大枠を定め、個人情報保護規定でその詳細を定めています。ホームページには個人情報保護方針を掲載し、その内容を示しています。他機関とのやり取りでやむを得ず情報を提供する場合は、同意書の内容に従い最小限で行っています。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子どもに対してはそれぞれの状況に応じ、できるだけわかりやすい方法で伝えるようにしています。保護者とは連絡帳やメール、電話など家庭状況に応じた方法で意思疎通や情報伝達ができるよう配慮をしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		行事に地域住民を招待することはありませんが、地域の民生・児童委員の見学は積極的に受け入れています。その他地域住民の見学希望にも応じています。保育実習や地域の大学病院の社会医学実習の受け入れも積極的にしています。	
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しています。職員は会議の際に見直しや理解を深めています。保護者には契約時にお知らせしています。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年間計画に基づき月に1回訓練を行っています。実施後は担当が中心になり訓練の検証を行っています。	災害時に役に立つ訓練になるために、訓練の検証をしっかりと行うとともに、様々な場面を想定した訓練を実施していきます。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		調査票、面談で確認しています。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	○		医師の指示書に基づき対応しています。	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成、回覧し職員全員で共有しています。また会議で改善案を話し合っています。	報告書作成、回覧の時間を短縮し、より早くしっかりと共有できるための方法を考えていきます。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に職員は虐待のセルフチェックをし、その結果があれば児童発達支援管理責任者が面談を行っています。外部の研修に参加の機会を作っています。	虐待防止研修に参加した職員が、全職員に虐待防止のための情報や知識を提供できる機会を作っていきます。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		やむを得ない身体拘束については組織的に決定し、保護者に面談で事前に説明し了解の上、計画に記載しています。現在対象のお子さんはいません。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。